戦国武将ものがたり

戦国時代を扱った人気ゲームや大河ドラマの影響か、近ごろ若い女性が熱く語るのは武将の人物評とか。城下町、古戦場などを訪ねる女性が増え、武将に関連する道の駅の利用者数も伸びている。力強さに欠ける草食系男性が増えている反動？　女性の思いは数百年の時空を超え武将の元へ飛んでいるようだ。

小見出しは武将名、ゆかりの地名、最寄りの道の駅、駅の電話、文末のカッコ内は高速道路ＩＣから道の駅への主なルート。

1　島津斉興（なりおき）　鹿児島県指宿市

いぶすき彩花菜館　☎0993・27・9022

指宿温泉には古くから島津藩の別邸があり、藩主斉興のとき、湯殿を設けた。現在は共同浴場「殿様湯」＝写真＝になっている。

外観は気品のある白壁造り、共同浴場には見えないほど立派。浴槽（男女）には島津家の家紋⊕が刻まれている。入浴料270円を払えば、誰でもお殿様・お姫様になって入浴できる。（指宿スカイライン頴娃ＩＣからＲ226）

2　豊臣秀吉　佐賀県唐津市

桃山天下市　☎0955・51・1051

約400年前、豊臣秀吉が文禄、慶長の役の本陣として急ぎ造ったのが同市の名護屋城。徳川家康、前田利家、伊達政宗、黒田長政、加藤清正ら諸大名120藩が陣屋を築き桃山時代の天下がここに集約され、秀吉は能や茶の湯といった桃山文化を持ち込んだ。

駅は城跡＝写真＝入口に位置し、徒歩３分の城址にある茶苑海月では天下人気分で優雅なひとときを過ごせる。名護屋城博物館も近い。（福岡前原道前原ＩＣから二丈浜玉道路経由Ｒ204）

3　長宗我部元親（ちょうそかべもとちか）　高知県南国市

南国風良里　☎088・880・8112

土佐を統一し四国を平定した元親は同市の生まれ。元親が生まれ育った岡豊城址が残され、近くの県立歴史民俗資料館には長宗我部一族の資料もある。

人気急上昇の武将の一人、女性を中心に元親の墓を訪ねる人が倍増した。高知市内にある若宮八幡宮境内の元親初陣の像＝写真＝も人気を呼び、５月の初陣祭りには県外からもバスツアー客が集まる。（高知道南国ＩＣからＲ32）

4　毛利元就（もとなり）　広島県安芸高田市

北の関宿安芸高田　☎0826・57・1657

地方豪族に過ぎなかった毛利家だが、知将・元就は大内氏、尼子氏など周辺の大国、強国を退け、中国地方最大最強の戦国大名となった。

同市には元就が生涯居城とした郡山城跡、「三矢の訓」碑、「百万一心」碑などが残され、西国雄藩発祥の足跡をたどることができる。（中国道高田ＩＣから三次美土里線）

5　山中鹿之介幸盛　島根県安来市

広瀬・富田城　☎0854・32・2575

戦国大名尼子氏の月山富田城の山ろくに駅がある。尼子氏は毛利一族に滅ぼされるが、お家再興を念じて奮闘したのが鹿之介。

西国一の武辺者と評され「我に七難八苦を与え賜え」と月に祈りながら奔走した。月山富田城は〝天空の城〟と呼ばれる不落の山城だった。同市には月に向かって祈る鹿之介像＝写真＝がある。駅近くに戦国ロマンを今に伝える数多くの史跡がある。（松江道安来ＩＣから安来木次線）

6　源義経　滋賀県竜王町

竜王かがみの里　☎0748・58・8700

京都・鞍馬山を降り、奥州平泉を目指す牛若丸が元服して義経となった地。義経元服餅、義経元服池最中などの駅の土産品が人気。

駅長さんお勧めは義経元服膳＝写真。塩ぶりのぬたなど鎌倉時代の武家の祝い膳を再現している珍しい料理、３人以上で要予約。１人2100円で鎌倉武士気分を満喫できる。（名神高速竜王ＩＣからＲ８）

7　徳川家康　愛知県新城市

鳳来三河三石　☎0536・34・0139

長篠合戦の数年前、武田勢に敗れた家康らが満光寺に仮泊、一番鶏の鳴声で起き出して敗走を続けた。その日に限ってまだ暗いうちに寺の鶏が鳴き出したおかげで、徳川勢は無事だった。のちに鶏は扶持米三石を与えられた。

この満光寺に隣接しているのが道の駅。鶏の扶持米にちなんで命名されている。（東名高速豊川ＩＣからＲ257）

8　木曾義仲　長野県木曽町

日義木曽駒高原　☎0264・23・3644

戦乱の雄・義仲を育てた地。義仲は倶利伽羅峠の戦いで平氏の大軍を奇策〝火牛の計〟で破って上洛する。荒廃した都の治安回復を期待されたが失敗し、源義経の軍勢によって近江国粟津で討たれた。

同町には博物館・義仲館があり、義仲と猛妻巴御前が仲良く並んだ像がある＝写真。駅舎はこの義仲館をイメージして建築されている。（長野道塩尻ＩＣからＲ19）

9　武田勝頼　山梨県甲州市

甲斐大和　☎0553・48・2571

戦国最強騎馬軍団を誇った武田一族終えんの地。恵林寺に信玄、景徳院に勝頼の墓があるなど武田家ゆかりの史跡が点在し、駅は歴史探訪の拠点である。

恵林寺に隣接する信玄公宝物館には武田24将図、風林火山の旗、武田総領家の鎧兜（国宝）などが展示されている。ＪＲ甲斐大和駅前には雄々しい勝頼像＝写真＝がある。（中央道勝沼ＩＣからＲ20）

10　直江兼続（かねつぐ）　新潟市

新潟ふるさと村　☎025・230・3030

越後の龍・上杉謙信に仕えた兼続はＮＨＫ大河ドラマで取り上げられている注目の武将。駅では天地人ふるさと展、直江兼続展の２本立てイベントを展開し、会場の「時の旅人館」はそれまでの３倍の来館者を集めている。

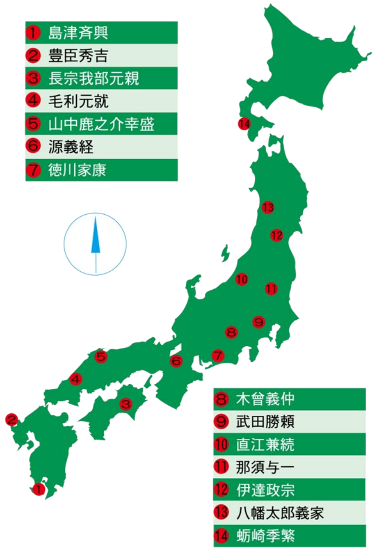
兜の前立てに「愛」を掲げた上杉の智将・兼続＝写真＝は越後、会津、米沢と転じながら上杉家に仕え秀吉、家康らから一目置かれた武将。新潟、福島、山形で関連イベントが開かれ、各駅には兼続グッズが並んでいる。（北陸道新潟西ＩＣからＲ８）

11　那須与一　栃木県大田原市

那須与一の郷　☎0287・23・8641

駅に与一伝承館があり、那須家に代々伝わる資料を展示、また源平屋島の合戦で与一が扇の的を射抜いたエピソードを映像とからくり人形で再現している。駅舎の屋根は与一にちなんで扇形をしている。

同市では道路の愛称、マンホールのふた、公衆トイレの壁などに与一像を図案化している。玄性寺には与一の墓がある。（東北道矢板ＩＣからＲ461）



12　伊達政宗　宮城県大崎市

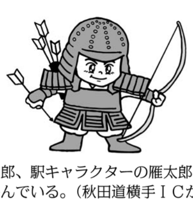
あ・ら・伊達な道の駅　☎0229・73・2236

独眼竜・政宗は秀吉の命で米沢から同市に移封させられた。25歳の政宗が仙台に移るまでの12年間、青年時代を送ったのが同市の岩出山城。

城址近くに現存する最古の藩校・有備館（史跡）が残されており、ＪＲ有備館駅前には政宗騎馬像＝写真＝がある。武将ブームの影響もあってか、同市を訪れる観光客は増え、同駅は年間340万人の利用者を数えている。（東北道古川ＩＣからＲ47）

13　八幡太郎義家　秋田県美郷町

雁の里せんなん　☎0182・37・3000



東北地方を支配していた清原氏と八幡太郎義家の争いである後三年の役で、乱れ飛ぶ雁（かり）を見て、伏兵ありと察知した義家が難を免れた。

この逸話〝雁行の乱〟に由来した駅の愛称は雁太郎、駅キャラクターの雁太郎くん＝イラスト＝が人気を呼んでいる。（秋田道横手ＩＣからＲ13）

14　蛎崎季繁（かきざきすえしげ）　北海道上ノ国町

上ノ国もんじゅ　☎0139・55・3955

15世紀、北海道最南端の渡島半島は下之国、松前、上之国に分かれ12の館を置いて統治され、同町には花沢、勝山、州崎の３つの館があり、北海道では珍しい中世都市だった。

駅から車で３分の花沢館の館主・季繁は1457（長禄元）年のコシャマインの戦い（アイヌ民族との戦争）で館を守り通したという。蛎崎一族は松前藩の祖。（道央道八雲ＩＣからＲ227経由Ｒ228）

橋がつなぐ　みんなの未来
社団法人　日本橋梁建設協会
http://www.jasbc.or.jp/

橋がつなぐみんなの未来

Bridges bring our brighter future. vol.6

日本の橋梁技術は、過去・現在・未来をつなぎ、世界の街と街・人と人を結びます。

第2ボスポラス橋
second bosphorus bridge
トルコ共和国 イスタンブール

ヨーロッパとアジアの架け橋

ヨーロッパとアジアを結ぶ第2ボスポラス橋。左がヨーロッパ側、右がアジア側

モンゴル人と西洋人の血が流れているといわれるトルコ人のように、トルコの首都イスタンブールもボスポラス海峡をはさんで東のアジア、西のヨーロッパにまたがる世界唯一のユニークな都市です。

これをつなぐ最初の橋として１９７３年、英国の会社によってボスポラス海峡大橋が架けられました。しかし交通渋滞が慢性化するようになり、その解消のため、日本の円借款で１９８８年に日本の企業により５kmほど北に第二ボスポラス橋が建設されました。

この橋は全長1510m、中央支間長１０９０mの吊橋で、幅員39m（8車線）。ヨーロッパルートＥ80とアジアハイウェーＡ1をつないでおり、ヨーロッパ側からの車に限り有料になっています。

その後、１９９９年にイズミール大地震を経験したトルコは日本の高い耐震技術に注目しました。そして第一ボスポラス海峡大橋など四つの大橋の耐震工事も日本の円借款を要請して日本に依頼することになるのです。

ヨーロッパとアジアを併せ持つイスタンブールの事情は、日本の下関市や鳴門市にもあてはまり、さらに海峡部には吊橋が架かっているということでも似通っています。このこともあってか、イスタンブール市と下関市は姉妹都市の関係にあります。

フレンドリーブリッジ
friendry bridge
インドネシア ジョグジャカルタ

海を超えた「人と人の架け橋」

高度経済成長の時代に全国各地で歩道橋が設置されました。しかしライフスタイルや道路事情の変化などに伴い、大阪府ではいくつかの歩道橋の撤去を決定し、その有効活用を検討していました。

そうした中、２００６（平成18）年に発生したジャワ島中部地震の復興援助で大阪府の職員が派遣されたことがきっかけで、「10年前の土石流で流されたチョデ川に架かる橋を再建してほしい」という要望がジョグジャカルタ市の住民から寄せられ、守口市の佐太東歩道橋がインドネシアのジャワ島に移設されることになったのです。

撤去は大阪府の負担で２００６年の11月に実施。ジャワ島までの運送費、建設費用は府が組織した「人と人の架け橋」が集めた企業や個人からの協賛金で賄いました。

撤去前の「佐太東歩道橋」

そして、ジャワ島に向け日本を出発したのが翌２００７年の12月。約一ヶ月の船旅を終えてインドネシアに到着し、あらかじめ建設されていた基礎の上におよそ二週間の架設作業の後、晴れてチョデ川に「歩道橋」が架かったのです。

この橋により、住民は病院や学校に通いやすくなりました。これを機に日本とインドネシア両国の中学生同士の交流も深まっているということです。

歩行者・バイク専用の橋として蘇ったフレンドリーブリッジ

クワイ川鉄橋
river kwai bridge
タイ カンチャナブリ

戦場にかける橋

クワイ川鉄橋は、太平洋戦争時代の旧日本軍が軍需物資の輸送を目的にマレー半島を横断する泰緬（たいめん）鉄道建設工事の一環で架けられた鉄橋です。延長約４００kmの鉄道新設工事は、路線のほとんどが人跡未踏の大密林地帯で、かつ世界的に有名な多雨地帯でした。

工事は昭和17年から18年にかけて約1年間という記録的な建設速度で終わりましたが、これは軍の作戦上から建設されたもので、苦難に満ちた工事でした。軍関係者と民間技術陣に加え、外国人の捕虜となった方々や現地の人々の中から多数の犠牲者を出したといわれています。

この鉄橋をめぐる有名な映画「戦場にかける橋」は、当時日本人がケオノイ川と呼んだクワイ川の支流ケオヤイ川に架かっているメクロン橋（通称「クワイ川鉄橋」）を舞台にしたものです。

当時の事情を知る関係者の話によれば、この映画のテーマとなったように、敵味方をこえた建設への意欲を共有していたと伝えられています。

１９７６（昭和51）年10月、この橋で旧日本軍関係者と旧連合国関係者、そして旧日本軍による捕虜になった方々や現地住民70人が33年ぶりの再会を果たしました。

お互いの立場や30年以上の時を超えて再会した人々が、手をとり肩を叩き合いながらこの鉄橋を渡る時には、期せずして映画の主題歌「クワイ川マーチ」のハミングの合唱となったと、当時の新聞に記されています。

現在のクワイ川鉄橋

あなたの「橋の物語り」をお寄せください。

読者の皆さまのご当地自慢の橋をご紹介ください。
橋にまつわる詩やエピソード、
こぼれ話など、
橋にまつわる事なら大歓迎です。

宛　先
〒105-0001
東京都港区虎ノ門4-1-1
虎ノ門パストラル内
NPO人と道研究会
「橋がつなぐ みんなの未来」係